2009年9月1日発行（毎月1回1日発行）第20巻9号通巻234号　1991年1月8日第三種郵便物認可

たたかう労働運動の新たな潮流を！

月刊

交流センター

2009
9

□大恐慌―大失業と戦争の時代に
労働組合を甦らせ、11月集会1万人の
決起を実現しよう！

代表運営委員　辻川慎一

□自民党支配の崩壊を階級的労働運動の爆発的前進へ
11・1一万人決起で〈民主党＝連合体制〉を打倒しよう

□10・11三里塚全国集会へ！

□双龍自動車工場占拠ストが終結

全国労働組合交流センター

8・6ヒロシマ大行動に1800人が結集（8月6日広島）

月刊 交流センター 2009年9月号 No.234

目次

◉労働者の目　号砲一発、さあ行くぞ！……1
◉自民党支配の崩壊を階級的労働運動の爆発的前進へ
　11・1一万人決起で〈民主党＝連合体制〉を打倒しよう……2
◉大恐慌―大失業と戦争の時代に労働組合を甦らせ、
　11月集会1万人の決起を実現しよう
　代表運営委員　辻川慎一……4
◉JR会社の団結破壊・組合解体攻撃を団結の強化・
　拡大で打ち破り勝利した！……8
◉物流を握る民間交運労働者は団結しよう！……10
◉本部打倒し、闘う電機労働運動再生を！……12
◉世界恐慌と対決し、金属労働者の
　階級的な隊列を日比谷へ！……13
◉闘う合同・一般労組　俺と仲間と分会結成……14
◉ひめじょおん―女性部から
　「道州制攻撃」で、敵味方の構図がハッキリした！……16
◉動労千葉労働学校で学ぼう！……17
◉労働ニュース……18
●「過剰雇用」最多の607万人
◉双龍自動車工場占拠ストが終結
　11月1万人結集で闘いを引き継ごう……20
◉10・11三里塚全国集会へ！
　空前の大結集めざして総決起しよう……22
◉読者のページ……23
●マンガ

労働者の目

号砲一発、さあ行くぞ！

山川　博康
常任運営委員（ス労自主）

「民主３０８政権交代」、「自民１１９歴史的惨敗」の文字が踊る。本当にそうか。そう見るべきなのか。事の本質は、労働者・民衆の怒りで自民党ブルジョア政権が倒されたということだ。

資本主義を護持し続けてきた、そして、延命させようとして、「自民党をぶっ壊す」などと虚言を弄し、その実ぶっ壊したのは、労働者の団結破壊、「自己責任」という名をもって強行した生活破壊、雇用破壊、社会保障の切り捨てであり、戦争政策の強化だった。

資本主義のなれの果ての新自由主義に対して、労働者の根底的な現状変革の希求が、戦後60有余年続いた自民党政権を倒したのだ。いよいよわが全国労組交流センターが歴史の前面に登場する時がきた。

２００９年11月１日、今年の11月全国労働者総決起集会１万人結集の成否に、日本の労働運動の未来がかかっている。

世界資本主義が生み出した大恐慌を克服し、三度目の世界戦争を阻止する、世界の労働者を繋ぐ労働運動の可能性がかかっている。

日本帝国主義がその延命を賭けた国鉄分割・民営化攻撃と真正面から対決し、「反連合・反全民労協（反全労連）」の旗の下に、動労千葉と全国労組交流センターが切り拓いた、歴史的な地平だ。

今秋に予測される５・27国労臨大刑事裁判有罪判決―ＪＲ西会社による５被告人への解雇攻撃も、道州制・「公務員改革」も、雇い止め解雇も、そして現下の法大闘争暴処法弾圧も、その全てを武器と化して、国鉄１０４７名闘争を基軸に、全国に繋がる労働者の団結を組織し、日本帝国主義の北朝鮮侵略戦争を、核武装を、現実に阻止する労働運動を創り出す主流派として、踊り出なければならない。人類史は、それを待ったなしにわれわれに問うている。11月全国労働者総決起集会１万人結集の実現とはそういうことである。

「先進資本主義国家の組織された労働者」たるわれわれ全国労組交流センターこそが、その歴史的担い手である。

用意はいいか。さあ行くぞ！

動労水戸ストライキと連帯して決起するス労自主
（８月21日茨城）

自民党支配の崩壊を階級的労働運動の爆発的前進へ
11・1一万人決起で〈民主党＝連合体制〉を打倒しよう

労働者の憤激が自民党を打倒した！

8月30日投開票の衆議院選挙は、民主党が308議席を獲得して圧勝、自民党は119議席に転落する歴史的惨敗となった。

新自由主義―構造改革への労働者階級人民の積もり積もった怒りは、安倍、福田、麻生をぶっとばし、ついに自民党そのものを打倒した。55年以来、半世紀を超えて続いてきた自民党支配が、世界大恐慌のまっただなかで崩壊した。野党が衆院で第1党となり政権交替するのは、47年の社会党（片山内閣）以来、戦後革命期以来の革命的激動が始まった。選挙終盤、自民党は、「日本を壊すな」と革命への恐怖をむきだしにし、民主党も「行き詰まりを革命やクーデターではなく、選挙を通じて打開していくことが民主主義」（管）と叫んでいた。自民党政権をぶっとばした労働者階級の次なる課題は、プロレタリア革命の最後の防波堤として登場した民主党政権とその支柱＝連合を打倒し、資本主義体制の打倒へと突き進むことだ。

道州制推進、公務員首切り・賃下げが民主党の公約

民主党は、徹頭徹尾、資本家階級の政党である。貧困と格差への渦巻く怒りの前に、マニフェストでは、「生活第一」「家計支援」を前面に押し出し、消費税増税をさしあたりは封印している。しかし、新規施策の財源は、大企業や富裕層からの増税ではなく、「無駄遣いの根絶」と称して「国家公務員人件費2割削減」を明記し、「各種手当・退職金水準や定員を見直す」としている。人事院勧告のさらなる切り下げも検討すると言う。

安保・外交政策では、「緊密で対等な日米同盟」「東アジア共同体の構築」を掲げ、「貨物検査の実施」「海賊発生地域に自衛隊派遣」、さらに「国連軍参加」まで打ち出している。

民主党が日帝ブルジョアジーの代弁者であることは、「地域主権国家」の名による道州制・民営化推進の旗印を鮮明にしたことによりも明らかだ。

経団連は、「政権公約に盛り込むべき優先事項」に「道州制推進基本法制定」を掲げ、橋下、中田ら「首長連合」がその先兵となって、道州制推進を自民・民主に競い合わせた。結果、自民党は、マニフェストに「17年までに道州制導入」をうちだし、民主党は「300自治体構想」を棚上げして「地域から盛り上げられた道州制ならOK」と道州制推進に転換、マニフェストで「地域主権国家」「道州制検討」を打ち出すに至った。「労働契約法や判例法理等に準じた雇用保障制度を導入します」（政策集）と、公務員の身分保障解体をうちだしたことも重大だ。

政労使一体の産業報国会となる連合指導部

連合は、この民主党と「公務員制度改革の断行」を含む政策協定を締結して全面支援を決定し、組合員を民主党選挙に駆り出してきた。連合が、民主党政権下で政労使一体の産業報国会と化そうとしていることを示したのが、自治労熊本大会だ。

自治労本部は、委員長挨拶で「政労使は、社会を支えるパートナー」と宣言し、運動方針で「道州制議論に参加」をうちだした。新運動方針は、「公共サービス改革」という名の〝働こう〟運動、「自治体財政確立・分権推進」の名による賃下げ、「非正規処遇改善」の名による労働条件引き下げ、「労

働基本権回復」の名による身分保障解体、北朝鮮制裁支持、総じて道州制・民営化推進へと大転換する内容だ。

恐慌と戦争の時代の行方を決める職場生産点の攻防

いまや、ブルジョア権力機構そのものと化して、首切り・賃下げ、非正規化を進めようとする連合を労働者の怒りの総反乱でぶっとばす時がきた。国鉄１０４７名闘争を先頭に、道州制・民営化絶対反対の闘いを職場から巻き起こし、連合執行部を打倒しよう。

世界大恐慌は果てしなく進行し、未曽有の大失業時代が到来した。７月の失業率は、５・７％と過去最悪を記録、有効求人倍率も０・42と過去最悪を更新し、完全失業者は３５９万人に上っている。

だが、これもまだ序の口だ。製造業の稼働率の低迷が続き、雇用調整助成金の期限が切れれば、経済財政白書が「過剰雇用６０７万人」とうちだした正規労働者の大量首切りが始まる。09年度末で８１６兆円、ＧＤＰ比１６８％に達するＧ８最悪の財政赤字は、恐慌・失業対策の余地も失わせている。日帝経済の破局は不可避だ。

保護主義と争闘戦が激化する中で、日帝支配階級は、ブロック化と戦争、道州制・民営化に延命を賭け、侵略戦争と階級戦争を貫徹する強権的執行体制の形成に向けてあがいていく。

自民党の崩壊は、戦後の議会を使った階級支配の崩壊であり、階級と階級の非和解的激突への突入だ。恐慌と戦争の時代の行方を決するのは、なによりも、労働運動の解体・翼賛化をめぐる職場生産点の攻防だ。11月労働者集会は、未曽有の革命的激動の中で、階級的労働運動が労働運動の主流派へと躍り出る闘いとなった。国鉄１０４７名闘争、三里塚闘争、国際連帯を武器に、１万人結集を切り開こう。

絶対反対の団結の拡大に世界を変革する力がある

民主党との連立を決めている社民党は、改憲・海外派兵反対など「三原則」で民主党をぶれさせないなどと言う。だが、民主・社民・国民新の「共通政策」には、外交・安全保障分野はなく、民主党に丸投げだ。

共産党は、「建設的野党」を標榜し、民主党政権への事実上の閣外協力を表明している。「よい政策は推進役、悪政には防波堤」などと言いながら、日米ＦＴＡと比例削減以外は民主党政策に両手をあげて賛成し、外交でも「オバマ政権の核廃絶など前向きの変化は後押ししていく」などと言っている。

全政治勢力の総転向と総翼賛体制が形成される中で、新潮流運動が94年以来、掲げてきた「新しい労働者の党をつくりだす」闘いは、11月国際連帯の中から、国際労働運動の階級的潮流と世界単一の労働者党を建設する巨大な奔流となって発展している。

資本と非和解で闘う労働者階級の団結とその拡大の中にこそ、世界を変革する力がある。職場で階級的団結をつくりだし、11・1日比谷野音に結集しよう。

大恐慌―大失業と戦争の時代に労働組合を甦らせ、11月集会1万人の決起を実現しよう！

代表運営委員　辻川慎一

革命的時代認識と4大産別決戦路線

ブルジョアジーとその体制内勢力のあらゆる希望的願望と幻想を踏みしだいて、世界大恐慌は破局的臨界点に向けて確実に突き進んでいます。

客体情勢の成熟と労働者階級の主体的情勢の成熟がかみ合うところに革命の条件が形成されます。労働者階級にとって時代認識が重要であるということは、時代に対応する主体的条件を形成することなしに未来を切り開くことができないからです。ブルジョア社会支配とは、蓄積されてきた資本としての過去による労働者階級支配です。それに対し、未来を切り開くために現在の攻防を決定的に位置づけて闘い抜くことが、労働者階級の闘争です。そうしてこそ、現在の白熱的攻防を直接的結果や現象に支配されず、将来に向けた現段階の攻防として正しく位置づけ、力強く闘い抜くことができます。労働者階級としての今日までの歴史的攻防と、現在の攻防の中に未来があるということです。この攻防の積み重ねと飽くなき前進こそが、階級的成長を切り開き、主体的条件の成熟を準備するのです。

国鉄闘争を基軸とする4大産別決戦路線とは、今日までの歴史的攻防と現在的攻防の中に、労働者階級としての未来が孕まれているということです。ブルジョアジーは、全世界に対する搾取と収奪によって蓄積された巨大資本それ自体によって歴史的生命力を失いながら、その階級的延命のためにさらに「搾取の強化」と「戦争」に突き進む以外にないのです。それゆえ、彼らは相互に闘争しながら何よりも労働者階級の団結と決起に怯え、その労働組合的階級的団結の破壊という点において一致するのです。

1974～75年恐慌以降、明確な階級意志をもって国鉄分割・民営化を行い。民営化・アウトソーシング路線の下で派遣労働・非正規雇用労働を全面化させ新自由主義攻撃を貫いてきました。しかし、それ自体が資本主義社会の全面崩壊を導くと共に、動労千葉を基軸とした労働者階級の強固な反乱の中で危機を深めながら、その究極の攻撃として「道州制」に賭けてきているのです。

今日日帝ブルジョアジーの危機は、自民党政権の歴史的崩壊が、ブルジョア議会体制支配それ自体の危機として劇的に進行していることに現れています。民主党政権の成立とは、これをいかに連合が支えようとも、労働者階級大衆がブルジョア議会主義体制と体制内勢力の幻想から急速に離反していく過程になります。それゆえ同時に、国家権力実体の暴力装置である警察と軍隊の発動と、これをめぐる権力闘争が不可避化しているのです。

労働者階級にとって重要なことは、労働者階級の団結の中に、そして一人一人の腹を決めた決起と闘いの中にこそ一切を打ち破る巨大な力があることを明確にさせることです。

09年の鉄火の実践においてつかみ取ったこと（組織的集団的実践とその総括の中に勝利の道がある）

この核心は、大恐慌への突入が大失業と戦争をめぐる労働組合の主戦場におけるブルジョア体制内勢力との死闘にあることを明確にさせ、動労千葉の階級的地平に打ち立った青年・学生の闘争を先頭

にした鉄火の実践において、私たちがつかみ取ってきたことです。

ブルジョアジーや右翼勢力も含む体制内勢力は、労働者の存在とその階級的決起をとことん低めようとします。そして力なき烏合の大衆のように描き、それを労働者自身の意識に刻み込もうとします。古い例えですが、右翼の「巨万の大衆より一発の銃弾」という思想は、何より労働者の一人一人の決起とその階級的共同性の強靱さを見据えられないところから来る労働者階級蔑視の思想にほかなりません。だからこそ、「巨万の」という内実を職場－街頭における労働者一人一人の決定的決起と別に捉えてはならないのです。

さらに、国鉄１０４７名解雇撤回闘争をめぐる「４者４団体」の「和解・解体」路線と激突して勝ち抜かれた昨年11月集会。さらにそれ以降の派遣切りに対する体制内「救済主義」との徹底的激突と労働組合を通した非和解的闘争の貫徹。２月西郡闘争と３・６橋下打倒闘争を道州制絶対反対の党派闘争として貫き、５・15沖縄闘争においてこの地平を強固に発展させたこと。６・14－15連続闘争において階級的力関係を形成する中央政治闘争を復権させ、同時に法政大学闘争をもうひとつの階級決戦として押し上げ。８・６－９広島長崎闘争から８・15闘争を「犠牲者追悼－平和」という体制内城内平和の幻想の強制を打ち破った階級闘争の日として打ち立て、鮮烈な分岐と結集を勝ち取ってきたこと。これらの闘いを、ブルジョアジーと体制内勢力との激突として闘い抜くことによって、彼らの思惑を超えた新たな決起と結集を生み出し、かつてない高揚を切り開いて来ることができたのです。

交流センターは、07年総会において「体制内労働運動との決別」を打ち出し、これをめぐって激しい路線論争になり、脱落を生み出しましたが、今や「体制内労働運動との激突」こそが青年を始め労働者階級を鮮烈に獲得していくことが明確になったのです。労働者階級とブルジョアジーの階級的非和解性を土台に、階級的団結でこれまでの一切の城内平和＝体制内勢力との住み分けを根底から打ち破り続ける過程として08年11月から09年闘争の勝利が切り開かれてきたのです。そして、星野文昭氏奪還闘争と共に三里塚闘争を労農同盟をかけた階級闘争として断固として位置づけ、10・11に向けて進撃しようとしています。これら一切の闘争は、労働者階級として資本家階級との非和解性の上に立って階級的責任を取っていくということにほかなりません。そのために労働者階級の勝利の路線を打ち出し、実践的に明確化してきた過程としてあります。

大恐慌の時代、大失業の時代、戦争の時代の到来とは、再び一切の政治勢力－労働運動勢力が激しくふるいにかけられ、本物だけが生き残る時代が来たということです。労働者大衆は、ブルジョアジーと体制内勢力の嘘と欺瞞にうんざりしています。何より、このままでは人間らしく生きられないのです。われわれが労働者を蔑視しないということは、真実を伝え、自らがその団結の最先頭で闘い抜くということ以外にありません。その思想が重要であるということです。当面する11月集会の勝利のためにも時代認識と路線、そしてこれを貫くマルクス主義の思想の錬磨が問われているのです。

労働組合運動の原理的再確立から
労働者階級全体の獲得へ突き進もう！

マルクスは、労働組合を自らの生活や労働条件を守るための武器から、賃金奴隷としての労働者階級の解放の武器としなければならないと主張しました。要するに、労働組合を資本主義体制内において一定の位置を占めるための手段にしてはならないということです。労働者階級にとって労働組合は、もっと根底的な武器だということです。そして同時に、労働組合は労働者が現在的に宗教やその他日和見主義者の主張等を信じていたとしても、すべからく「社会主義者」になっていく「社会主義の学校」なのだとも言っています。それは、いかなる労働組合に所属し、また新たな労働組合を打ち立てようとも、そこにおける闘争は、職場－地域－全国の全労働者と共に社会主義をつかみ取っていく決定的な武器としなければならない

ということです。分岐を生み出すということは、分立を容認し、体制内と共存するということではありません。絶対反対論は、労働者階級の大多数を組織する以外に貫徹されませんし、階級的団結とは職場の狭い団結に安住することを意味しません。分岐を生み出すということは、資本との闘いにおいて絶対反対論を貫いた新たな団結軸を強固に形成し、そこへの団結運動を徹底して貫く中で体制内勢力を駆逐していくということです。

4大産別は元より、既成の労働組合においては、資本を背景に体制内勢力が「強固」な労働者支配を貫徹しています。そして、直接的に労働者の意識を規定しているのも体制内思想です。しかし、これに対して階級的団結に基づく強固な人格と勢力が屹立したときから、労働者がすべからく社会主義者になっていく過程が始まるのです。だからこそ、ブルジョアジーと体制内勢力は、まずこの一人を叩きつぶすために総力をあげます。そして、それがフラクションや組織として登場したとき、その影響力をそぎ落とし、組織的団結を解体するためにあらゆる卑劣な手段を講じます。しかし、この打ち立てられた分岐－団結は、新たな仲間の決起によって激甚な影響力を発揮します。労働者を蔑視せず、全体の獲得まで止むことのない団結の拡大こそが階級的組織的団結です。小さくまとまり、分立・分断を容認するところからわれわれの体制内的屈服が始まっているということです。現在的関係を、労働者の階級的団結論でとことん打ち壊していくことです。

そうでなくては、大恐慌情勢の劇的進展に主体的対応が間に合いません。その場合、何よりも指導者とその構えがもっとも決定的です。労働者一人一人の存在と根底的決起の重要性と素晴らしさが分かるからこそ、その闘争の勝利と団結の決定的拡大に責任を取り切らなければならないのです。指導者とは、現場労働者と最も団結した存在であるからです。また、階級の勝利に責任を取るがゆえに、ブルジョアジーから農民を始めとする全ての大衆を引きはがし、労働者階級を支持する側に獲得する責任も負うています。

帝国主義諸国の労働組合運動の解体を軸に、全世界でこれまでの人間的つながりを徹底して破壊し、市場化してきた新自由主義は、既成の体制内労働運動の実体と幻想を破壊してきたという点において革命的役割を果たしています。

国際的国内的階級的力関係を決する 11月1万人決起と青年労働者獲得の重要性

「現場労働者」に闘争の実体を置いた国際労働運動の新潮流運動が09年7月をもって決定的に開始されました。その実体的中軸に動労千葉と11月運動が据わったのです。こうして11月集会は、国内のみならず国際労働運動の新潮流運動の震源地になったのです。この階級的必然を捉えたのは、11月集会に賭け続けて来た交流センター運動であり、この国際的階級的援軍をも最大限に活かし、空前の勝利を切り開く原動力もまた交流センターにあるのです。

11月集会の勝利という場合、09年後半の闘いを規定した6・14－15連続闘争の勝利をはっきりさせる必要があります。中央政治闘争として6・14－15連続闘争を打ち抜いたことが、国家権力と体制内勢力に激甚な打撃を強制し、8月闘争の勝利を規定したのです。

11月集会は、「自民党か民主党か」などというブルジョア議会において物事が決まっているのではなく、労働者の決起か鎮圧かに核心があることをものの見事に証明するのです。一切は階級的力関係によって決まる。これを日本階級闘争において鮮烈に刻印するのが11月集会であり、11月それ自体が力関係になるのだということです。ここで1万人決起が実現した場合、われわれが主導する闘争においてこれまでと画然と違う力関係が形成されるです。4大産別決戦、非正規雇用をめぐる闘い、三里塚闘争等々、われわれの闘争の一切が、腹を決めた労働者人民の1万人を背景とした闘争になります。そしてまた、何より決定的なことは日本と世界の労働者階級自身の鮮明で巨大な結集軸が打ち立てられるということです。労働者階級や労働組合がダメだということが、幻想でしかないことを万規

模の人間が確信し、それが全国全世界に地殻変動をもたらしていきます。既に、現情勢に対応する闘争において、徹底的に闘い抜き、最大の動員規模を実現できる勢力がわれわれをおいてないことは明確になっています。一切の勢力が求心力を失っています。われわれには、思想と路線の力に基づく団結実体と求心力があるのです。

11月の真の勝利のために

しからば、11月の真の勝利のために何が必要か？　一切の階級攻防の焦点に11月があり、11月への大結集自体をめぐって徹底的に闘争していくということです。

銀座を大デモ（08年11・２労働者集会）

第一に、11月集会をめぐる階級的課題について１ミリも曖昧にせず徹底的に闘争し抜くことにあります。市東さんの農地強制収用をめぐる三里塚闘争の解体と変質攻撃は、動労千葉と11月集会に対する攻撃として一体であるということです。10・11三里塚の空前の大結集の勝利なしに11月はないということです。

第二に、国鉄１０４７名闘争を基軸とする４大産別決戦路線を徹底的に貫き、４大産別労働者の中から大結集を実現していこう。国鉄闘争は11月闘争の牽引軸であり、４大産別の牽引軸です。動労千葉－動労総連合の闘争と国労「５・27」闘争は、ＪＲ体制とこれを支えるＪＲ総連－ＪＲ連合支配の破壊軸です。一切の住み分けをぶち壊し、根底的全面的決起を実現する動力源になろう。全労働者とりわけ青年は、ＪＲの青年労働者の決起に向けて最大限の支援を行おう！　自治労、教労、全逓においても、指導部のあり方が一切を決めることをはっきりさせ、11月集会をめぐって真っ向から闘争を形成しよう。現状の関係を追認していること自体が体制内指導なのです。11月を戦術的決起として小さく構えるのではなく、全体を獲得するための路線的戦略的分岐の形成として徹底的に打ちだそう！

道州制攻撃は既に始まっています、現場における絶対反対闘争の貫徹と11月決起を一体で貫徹しよう！

第三に、医療福祉を先頭とする全産別において職場丸ごとの獲得と決起をめぐって徹底的に闘争しよう。11月派－動労千葉派とは、腹を固めた労働者の決起なしには形成されません。それゆえに、一人の労働者の決起が激甚な影響力を発揮します。組織を握っている拠点こそ一人の決起について曖昧化しないということが重要です。道州制と医療福祉切り捨てが、何よりも医療福祉労働者の非正規低賃金雇用化と一体であることをはっきりさせ職場闘争と一体で11月決起を根底から生み出そう！

第四に、青年労働者の根底的決起をめぐる闘争において一般合同労組は、決定的役割を果たし続けています。資本によって、人間としての自己肯定的誇りをとことん蹂躙されてきたからこそその闘いは根底的であり、一つ一つの闘いが感動的です。青年の決起が青年を獲得していく過程が決定的に始まっています。一つ一つの闘いを水路に11月に向けて労働組合をさらに徹底的に打ち立てていこう。それ自体が力関係の形成だ。

倒産攻撃は、さらに激化します。民間中小における闘いは、現場労働者組合員の命運に誰が真に責任を取っていくかを賭けた資本との闘いの最前線です。だからこそ路線で勝負していくことが決定的なのです。「倒産か否か」という資本の強制する選択ではなく、「団結して闘い抜き、勝ち抜く」という路線が必要なのです。11月は、その路線の勝利の上に立ちます。

第五に、職場における闘争と共に街頭における渾身の訴えを展開しよう！　総選挙後の民主党幻想は、11月集会の最大の敵であるとも言えます。敵の崩壊を待つなどという構えで11月の勝利を切り開くことはできません。直ちに徹底的な批判に基づく街頭宣伝を貫徹し、とりわけ青年労働者に11月集会への結集を呼びかけよう！　同時にこの行動の中で、職場と立場を越えた団結を形成しよう！

ＪＲ会社の団結破壊・組合解体攻撃を団結の強化・拡大で打ち破り勝利した！

国鉄水戸動力車労働組合

動労水戸はいま最高に熱い「秋」を迎えようとしている。

7月23日、8月21日の2波のストライキとこれに至る過程は、われわれを鍛え、職場全体の労働者に責任とる勢力として、本格的一歩を踏み出したといえる。動労水戸は、国鉄分割・民営化に反対して、動労千葉の闘いに連帯して民営化の半年前1986年11月に結成された。以降、ＪＲ会社はＪＲ総連・革マルと結託し、あらん限りの組織解体攻撃をかけてきたが、組合員は歯を食いしばって団結を堅持してきた。昨年12月、動労水戸組合員であるがゆえに運転士にさせないという運転士不登用不当労働行為事件は、中労委の救済命令の取消を求めていたＪＲ会社の訴えを退け組合側（動労水戸）が全面的に勝利した。この勝利は動労水戸の団結の勝利である。地労委―中労委、地裁―高裁―最高裁も動労水戸の団結について否定できなかったということだ。誰が見ても所属組合による差別であり本人たちへの不利益行為・そのことをもってする組合への支配介入である本件について、ＪＲ東日本が負けることを承知で裁判を長引かせたのは、その過程で動労水戸の団結を解体すれば「勝ち」と思っていたからだ。まさに問題は組合の（労働者の）団結が解体されるかどうかをめぐる闘いだったのだ。そしてわれわれは勝利した！

ＪＲ労働者の中へ！

同時に、動労水戸の解体のために、また、ＪＲ労働者への団結の拡大をさせないために、鉄道の本来業務から隔離しベンディング事業（駅のジュースの補充作業）や駅の直営売店などへ約半数の組合員が20年も強制配転されてきたが、これも会社として維持できなくなり、今年の4月までにほぼ全員が車両の検査・修繕を行なう鉄道の現場に復帰するという勝利を勝ち取った。

苦節23年、われわれはＪＲ会社の団結破壊・組合解体攻撃にうち勝ち、ＪＲの不当労働行為を認定した最高裁決定―中労委の救済命令を引っさげて、堂々とＪＲ労働者の中へ分け入って闘える地平を手にしたのだ！

1人の強制配転阻止のため全員がストの方針

窮地におちいったＪＲ東日本は、最高裁で認定された動労水戸に対する不当労働行為について「不当労働行為とは考えていない」と言い、運転士に就労させなければならないという救済命令を逆手にとって、居住地から4時間もかかる遠隔地への配属をほのめかし、救済命令を辞退させること狙った攻撃にでてきた。この期に及んでも、あくまで動労水戸の団結破壊を企図するというのがＪＲ東日本のやり方なのだ。しかし、大義がわれわれにあることは明らかだ。命令は履行しなければならない、だけど動労水戸の団結は解体しなければならないという会社のやり方は矛盾だらけで、本社の言いなりになっている支社や現場の管理者は大混乱だ。

そうした攻撃のひとつが、救済命令対象者を遠隔地配転させるその後任に別の動労水戸組合員を強制配転させるという攻撃だ。二重三重の悪行だ。突然の攻撃に闘争体制ができるのか、どうしたら攻撃をはね返せるのか、どうしたら組合員の団結が固まるのか、ギリギリの選択の中で7月23日ストが決定された。「よしッ！」攻撃の対象を抱えた職場の仲間はこれで一本ピンとスジがとおった。この1人の仲間の強制配転を阻止するために職場の組合員全員がストに入るという方針を全員一致して急速に鉄の団結がつくられた。この攻撃の過程で動労水戸で闘いたいと決起した中村君の組合加入と7・23ストの団結の前にこの強制配転の策動は粉砕された。いったん白羽の矢が立った配転を粉砕したことはＪＲではきわめて稀であり、職場の労働者の誰もが驚きの声を上げた。

しかし、仲間への攻撃がすべて消えたわけではない。ＪＲ本社、

水戸支社の団体交渉を重ねるも会社は「命令を履行するのに必要なこと」と居直り、あくまで遠距離配転を強行する構えを崩さない。

敵の狙いが動労水戸の団結破壊にあることは明らかだ。多くの議論の末に、団結破壊の攻撃には団結の強化を、団結の拡大を実現することだと闘いの核心をはっきりさせ、全組合員がストライキ方針と組織拡大を全員の力で取り組むことが決定された。長い間、動労水戸組合員であることだけで、鉄道職場から隔離する、昇進試験に合格しない、遠距離通勤が解消されないなど、あらゆる不利益を受けてきた組合員にとって「動労水戸に入れ」と勧誘することは簡単なことではない。これまでのただの職場のなかよし仲間とは違う、自分と人生を共にするほどの覚悟が必要なのだ。確かに強制配転を粉砕し裁判に勝ったという地平を手に入れた現在は以前とは違う。その確信を組合員が自分の言葉と行動で示すことが問われたのだ。

勝田車両センター前で抗議行動（８月21日茨城県ひたちなか市）

組合破壊策動を逆に団結強化へ

それはストライキを目前にして勝ちとられた。自分よりも先輩で国鉄入社以来の生粋の労働者でもある宇佐美氏に対して、組合員が意を決して声をかけ、宇佐美氏もこれに応え組合加入を決意した。こうして7月15日に加入した中村君、8月18日に加入した宇佐美氏の2人の新組合員を加え、8月21日全組合員がストライキに突入し、動労水戸の団結を会社と職場の労働者に知らせしめた。8・21ストには、緊急かつ平日にもかかわらず県内の地域の仲間のみならず、全国から交流センターの仲間、学生も応援にかけつけ、JR水戸支社前抗議行動、車両センター前の情宣行動は、赤旗が林立する中、ものすごい熱気あふれる感動的な闘いとなった。

救済命令履行をもタテにした動労水戸破壊策動は、逆に組合の団結を強化し、われわれを本格的に職場全体を掌握する主体に押し上げた。遠隔地配転の攻撃はまだ決着はついていないが、この間の闘いで得た教訓ともうひと回り大きく強化された動労水戸の団結の力をもってすれば、敵の攻撃をさらなる団結の大きさに変えることは絶対に可能だ。起こる事態に対して「団結に責任をもつこと」「団結を総括の軸にすえること」とはこうしたことなのだ。

11月集会1万人結集もこうした鉄火の中から、労働者の決起によって実現できると確信する。

物流を握る民間交運労働者は団結しよう！
11月1万人結集へ、職場と街頭で組織・組織しよう

民間交通運輸労働者部会（準）

東京コンドルタクシーでの春闘第２波ストライキ（６月14日　練馬）

昨秋のリーマン・ショック以来の大恐慌下、全世界で労働者の反乱が沸き起こり、ストライキや暴動的決起が闘われています。その先頭に、民主労総のトラック連帯の闘いや中国でのタクシー１万台のストライキなど、物流を握る交通運輸労働者の闘いがあります。

日本においては、国鉄分割・民営化－新自由攻撃と真っ向から対決して闘いぬき勝利してきた動労千葉の闘いが全ての労働者の結集軸となっています。われわれタクシー労働者は、動労千葉の闘いに学び、札幌でのストライキ闘争、東京コンドルでの体制内派との分岐・激突の闘いを先頭に民間交運産別形成を目指して闘っています。

タクシー労働者の賃金・労働条件は、小泉の規制緩和による新規参入・増車ラッシュ以降劣悪化を極めています。リーマン・ショック以来、月収は一気に10万円前後も激減し、東京でも手取り20万円を切ってしまう仲間が大半であり、地方はさらに大変な状況にあります。大量解雇攻撃の嵐のなかで、経団連と連合の結託による「雇用調整」の受け皿にタクシー業界がなることは、そうでなくとも最悪の歩合制の賃金制度の下にあるタクシー労働者の生活を、その最後の歯止めまで奪い、破壊するものです。本来仲間であるはずの労働者同士が「利用客の争奪」戦争に叩き込まれ、過酷な競争の激化が事故の激増となって跳ね返るという、絶対に許すことのできない事態が目前で進行しています。

この時代にタクシー労働者はいかに闘うか。体制内労組が言う「タクシーの再規制による景気回復」などではなく「大恐慌を革命へ」の中にこそタクシー労働者が生きる道があるという時代認識を値引きなく提起すること。職場で反合・運転保安闘争の路線で闘い、団結を組織していくこと。これ以外にありません。つまり、本当に動労千葉のように闘うということです。規制緩和―増車の元凶は国鉄分割・民営化にある。新自由主義を食い破ってきた国鉄１０４７名闘争を階級的柱にして、タクシー労働者の団結を作ろう。そしてタクシー・ハイヤーのみならず、バス、トラックなど民間交通運輸産別労働者全体に広げ、11月労働者集会１万人結集に向かって本格的な産別運動の強化・発展をかちとっていこうということです。

ヒロシマでの「民間交運交流会」報告

第２回民間交運産別全国交流会は、以上の基本認識のもと、11月集会派が職場の主流派に躍り出る決意を打ち固める場となりました。

札幌のタクシーの仲間は今回不参加でしたが、会社の枠を越えた地域的な団結を形成するとともに、闘争団に国鉄闘争の原点を守り抜くことを訴えて闘っています。昨春闘24時間ストに続き、今年はＭＫタクシーの新規参入に反対して４月21日に車両40台を連ね「規制緩和・増車絶対反対」を掲げての第１波車両デモを貫徹。さらに７月16日には第２波車両デモを闘い、それを背景に北海道運輸局との交渉闘争を貫徹しています。

愛知Ａ交通の仲間からは、執行部にいた当時、個人ビラ発行に対する統制処分を突き破って今年３月に賃上げと洗車料金の値上げ撤回を掲げて年休ストを貫徹して分岐をつくった報告が生き生きと語られました。20代の青年に動労千葉物販で働きかけていることも報

告されました。

首都圏からは7つの労組と個人タクシーのメンバーで民間交運産別（準）を立ち上げ、定期的に交流を重ね、産別リーフを発行してきた地平が報告がされました。千葉B労組の仲間からも体制内執行部の実態が怒りをもって語られました。彼らは5～8万円の役員手当を目的にした上、無線が優先的に手配されるなど、労使一体、腐敗そのものです。これに対して仲間は執行部選挙に打って出ます。「職場からは『頭を隠して委員長になってから思うことをやれば』との声もあるが、そうした立場は取らない。『世の中変えよう』『労働者の利害・立場を貫く組合にしよう』と真っ向から訴えて闘う」と方針鮮明です。

東京コンドルタクシーでは、合同労組分会の強化・拡大を目指して春闘指名ストを組織し、ストを共に闘った仲間の交流センター加盟を勝ち取っています。資本の御用組合取り込みと分会無視・敵視に2波のストと労働委員会戦術を駆使し、職場の分岐を促進し、闘う核を作り出すことを戦略軸に、春闘を闘い抜いています。

東京C労組では、共産党系の労組支配の中、ヒロシマ派遣カンパが30人の仲間から3万円も寄せられ、動労千葉物販にも20人以上の協力を得ていて、職場闘争とビラ発行について論議できる仲間が形成できるところまで信頼を勝ち取ってきています。しかし、これが11月集会の動員と交流センターへの結集に結びついていない課題も語られました。現場には資本と労組幹部への怒りがあり、闘う者への支持が明確にある。しかし、本当に問われるのは、資本主義は終わりであり、労働者の団結だけが社会を変える原動力、そして自分たちの力で社会を運営できるという時代認識と路線での一致を組織することではないかと論議されました。自分が職場の主流派であることに確信をもって、今こそ仲間を組織しようということです。

今回初めて参加の茨城・常南交通の青年労働者の報告は新鮮でした。常南交通は、スクールバス50台、観光バス20台、介護タクシー4台を擁する職場です。随意契約から競争入札への以降攻撃に対して県庁前でハンスト、そしてストライキ決起。入札を止められなかったが絶対反対で闘い、組織率を堅持しています。しかし、昼勤務のみのスクールバスと比べ、観光バス部門は数倍の労働量で賃金格差も激しく、部門間の分断をのりこえる団結をいかに作るかの苦闘をしているそうです。以前は団交に組織して「モノ」を取れれば済んでいたが、今はどうやったら団結を作れるかを考え抜いて、職場回りをしているという教訓は重要でした。新たな参加は、今後の民間交運産別の広がりを感じさせるものでした。

8～9月組合権力戦で仲間を組織し、11月労働者集会へ

ヒロシマ大行動以降、東京・首都圏や東海などいくつかの労組で、全自交（連合）・自交総連（全労連）にとって代わって11月派が主流派に躍り出るための権力攻防戦に打って出ています。「タクシー労働者はこのままでは生きていけない！　大恐慌下、働く者が社会の主人公となる新しい社会を作ろう！　闘う労働組合を甦らせよう！」を掲げて8月末～9月の執行部選挙―組合大会に立ちます。

この闘いは、あえて言えば勝敗や票数を直接の目的にするのではなく、職場の怒りと結合し束ねて、何人動労千葉派を作れるか、11月集会に共に決起する組織者を作れるかを総括軸とした組織戦です。そのための個人ビラを練り上げ、組合変革の「団結署名」などを駆使しています。大恐慌と自民党崩壊の大流動情勢のなか、いよいよ民間交運産別においても動労千葉派が体制内と激突し、一つの潮流として大胆に打って出る時がきたということです。

同時に、タクシー労働者にとって「職場」は会社のみならず、街頭に無限に広がっています。客待ちで長蛇の列となった駅前はタクシー労働者の怒りにあふれているのです。法大前で闘う学生にタクシー労働者がメッセージとともにカンパしたというエピソードは、それを示しています。「点」の怒りは瞬く間に燎原の火のごとく反乱へと広がる。11・1労働者集会1万人結集へ、街頭にも圧倒的に打って出て猛然と組織しよう。共に闘いましょう！

本部打倒し、闘う電機労働運動再生を！
――電機定期大会（於・札幌）でビラ撒き・情宣活動――

電機労働者部会

次期連合会長への古賀前電機委員長就任〝徹底弾劾!!〟

資本主義の崩壊過程での09春闘は、大半の組合が惨敗しました。既成の連合・全労連など企業防衛を最優先する体制内労働運動では、労働者の生活は全く守れません。

春闘終盤の3月14日、電機連合労使がむすんだ労使共同宣言＝奴隷宣言が、23日の政労使合意の先鞭となり、この春闘惨敗の推進役となりました。「雇用安定宣言」というが、では雇用は守られたか。とんでもない！　電機各社では何千、何万もの労働者の首切りが強行されました。このように連合の推進勢力として、電機の動きはなおざりに出来ません。事実、次期連合会長に、現事務局長の古賀を10月の連合大会で選任するといいます。古賀は、出身の松下電器の委員長在任時に、万を越える労働者の大量首切りを行い、その成果を買われ前電機連合委員長になった、まさに労働者の裏切り者です。私たちは古賀前電機委員長の連合会長就任を断固弾劾する！　日本の労働運動の恥ずべき現実は、連合・電機連合を先頭とした闘わない方針、労働者蔑視の反映です。このような連合のさらなる反動化を許さず、労働者の怒りの階級的団結で、電機をはじめ、連合・全労連ダラ幹どもを引きずり下ろそう。新政権、資本・御手洗を打倒しよう。

「賃金が減ったのは電機本部の責任だ！」
（7／9札幌厚生年金会館前）

春闘惨敗の責任取り、電機執行部は辞任せよ！

私たちは、09春闘惨敗の責任は、電機連合本部の春闘方針とその指導のあり方にあると考え、7月9～10日と札幌で開かれた電機大会会場前で、北海道労組交流センターの全面的な支援の下、「春闘惨敗の責任をとり、執行部は辞任せよ」「本部打倒し闘う電機労働運動再生を」「第6次賃金政策＝労働者分断の職種別賃金政策を白紙撤回しろ！」と呼びかけるビラをまき、マイク情宣を行って来ました。

強く感じられたことは、「春闘惨敗の責任を取れ」という主張に対して、多くの代議員はビラを受け取ったのですが、受け取る姿勢がいつもと違い、下を向き、目をそらす人が多かったということです。やはり、大幅賃下げの現実について、組合役員としてそれなりに責任を感じている代議員が多いからではないでしょうか。

中には、「会社がつぶれたらどうするんだ！」と食ってかかってきた代議員もいました。

しかし、100年に1度の大恐慌。天下のGMがつぶれる時代です。会社の提案にそのまま従っても、労働者の雇用や生活は守れないということがはっきりしたのも今春闘の現実です。

労働者の利害と、資本の利害とは絶対に一致しません。しかし、労働者が働かなければ、会社・社会の動きはすぐにもストップします。労働者こそ社会の主人公、労働者は誇り高い存在です。自らと仲間の労働者の生活を守るため、会社の攻撃に屈せず、あの韓国のサンヨン自動車労組のように、労働組合は断固闘うべきです。私たちは闘う電機連合を取りもどすため、これからも全力で自らの職場で闘います。そのためにも、その帰結としても、11月1日の労働者集会に電機職場から3ケタの仲間を参加させることです。あと2カ月、共にガンバロー！

世界恐慌と対決し、金属労働者の階級的な隊列を日比谷へ！

金属労働者　山口弘宣

日本政府がいくら上向いた経済指標を並べても労働者は信じない。どのように宣伝しようとも、職場の現実がその虚を暴くのだ。

大恐慌という資本主義の崩壊は、戦後続いてきた自民党支配、「議会制民主主義」による階級支配の崩壊に発展した。民主党幻想が労働者を覆っているが、民主党政権は反動政権として労働者の前に立ちはだかる。しかもこの支柱が連合という労働組合のナショナルセンターになる。民主党・連合の政権が支配権力として、労働者階級の前に登場するのだ。

連合は大恐慌下に労働者ではなく資本を擁護し、政労使共同宣言を発した。ストライキを否定し、経済闘争すら放棄して、労働組合を自ら解体する、まさに産業報国会として登場した。「ルールある資本主義」を掲げる全労連も同じだ。連合・全労連の労働者支配をこれ以上許してはいけない。

この大激動期に、労組交流センター派は職場で屹立することが求められている。労働者の手に労働組合を奪い返そう。そして、労働者階級の団結に依拠し、プロレタリア革命をめざす労働運動を実現しよう。

11月労働者集会こそ、時代を切り開く。国鉄１０４７名闘争が再び時代の最先端に登場し、４大産別の労働者の決起が資本主義体制を揺るがす。各職場の革命的反乱が体制内労働運動を打ち砕くのだ。

「時代認識と路線」で勝負！新たな攻防に入った日本機械労組

世界恐慌の現実は職場の中にある。経済指標や失業率の数字の実態は、自分たちの職場だ。職場の闘いこそ大恐慌との対決なのだ。階級的労働運動はこの職場の現実と闘うのだ。

09春闘では、ＪＡＭ日本機械工業労働組合が、新自由主義攻撃と連合の春闘屈服に抗し、３月23日に36年ぶりの半日ストライキに決起し、工場を席巻する構内デモを貫徹した。階級的労働運動の登場を実現した。このストライキ闘争は、職場の労働者を組織する闘いでもあった。

しかしその後、日本機械労組では、新たな闘いの攻防に入っている。資本によるリストラ攻撃と組合分断攻撃との対決だ。世界恐慌の現実と階級的労働運動の登場に資本の側は恐怖し、労働組合に分断攻撃を持ち込み、階級的労働運動の破壊攻撃をしかけている。職場攻防の中で、労組交流センター派は一時的な運動の後退を強いられた。しかし、青年労働者を先頭にこの大反動と対決し、移転阻止に向かって再度、職場からの闘いをつくりあげている。職場の体制内派と対決して、職場の労働者の獲得戦に打って出ている。

この日本機械労組での攻防は世界恐慌の現実である。動と反動の激しい階級闘争は職場の中にある。首切りやリストラ、事業所の閉鎖など、労働者にかけられている現実そのものだ。まさに世界恐慌は職場の中にあり、あらゆる資本の攻撃、体制内の反動も職場で起きるのだ。

世界恐慌と対決するには、やはり「時代認識と路線」が必要だ。動労千葉労働運動が確立した路線が職場に必要なのだ。資本の攻撃は具体的であり、職場の労働者に屈服を迫る。職場の労働者と格闘し、労組交流センター派に組織する必要がある。現実の職場攻防に勝利するには組織が必要なのだ。労働者をマルクス主義に組織し、組織しぬく闘いが必要だ。

今こそ金属労働者は、資本の大攻撃に対決するために、連合中央、全労連中央を打倒しなければならない。彼ら体制内派の裏切りで、職場の労働者が切り捨てられ、労働者の尊厳が奪われ、資本に従属させられている。工場・職場を支配している体制内派と対決し、職場の労働者を組織することが、11月労働者集会１万人を実現する力だ。金属労働者の階級的な隊列を日比谷に実現しよう。

俺と仲間と分会結成

東京西部ユニオン執行委員長　吉本伸幸

東京西部ユニオンは結成から今年で8年目を迎えます。

結成以来一貫して、われわれ東京西部ユニオンは「動労千葉のように団結を強固にして闘い、動労千葉のような組合を職場に作ろう」を合い言葉にして闘い続けています。

立ち飲み屋から作戦開始！

俺も東京西部ユニオン組合結成から共に、職場での組合作りの闘いを開始していました。そして、今の生コン職場に入ってから約7年になります。職場での仲間は仲間意識は無く、ギスギスしていて、経営者の態度や言葉にびくびくしていました。実際俺は「何だ、この会社は?」と最初に感じました。

もともと運転稼業は結構人よりは長いですから、そんなに時間がかからず先輩たちに信頼を得ることが出来ました。そうなったら、次に本格的に何から仲間作りを始めるか、いよいよ作戦開始です。幸いなことに会社のすぐそばに立ち飲み屋がありました。やはり労働者は仕事が終わると一杯飲み、会社や経営者の恨みつらみを肴に愚痴を言います。俺はまずここをポイントに酒を飲みながら職場での仲間作りを始めました。

次に俺が始めたのは、月に一回社員やバイト関係なく酒を飲んで話せる仲間を募り、毎月定例の飲み会を開催することでした。意外とこれは毎月7～8人くらいが集まり順調でした。

しかし、そこにとんでもない落とし穴が待っていました。これは、はっきり言って俺のミスです。ここに会社側に通じるスパイがいて、俺のやっている行動や言動が会社側に筒抜けだったということです。東京西部ユニオンの池内さんに当時結構怒られたことを今でも思い出します。「組合作りには慎重を期さなければならないのだ」と言われました。この時から常にこの言葉を俺は肝に銘じてきました。

次に考えたことは、この会社には忘年会や新年会、花見や暑気払い等、職場の仲間が集う行事が全然ない中で、次の狙いをここに置こうということでした。俺は職場の仲間と話しをして、会社が嫌がる職場の仲間が集まる親睦会を始めることにしました。表向き親睦会をやっていることは会社派の人間にわかっても良いが、核心の労働組合作りを悟らせないようにしました。

これを毎年続けて、4年目が過ぎた頃から、最初からいた7人の仲間意識がより強固になっていきました。もうこの頃で3月イラク反戦・春闘集会、11月労働者集会等には職場から常に3人ぐらいは参加してくれるようになっていました。

どんぶり勘定でデタラメな会社のやり方に怒り、職場の仲間が一致し団結が始まり出した時でした。

組合作りを始めて5年目、職場の組合の分会長が東京西部ユニオンに加入したのもちょうどこの時期です。今まで職場で一人だった俺に、とうとうもう一人の俺が出来ました。ここからが本当の俺の勝負だと考えました。

大恐慌下、ついに組合結成へ

２００８年9月、とうとう待ちに待った、資本主義の崩壊が始まりました。大企業倒産等だけではなく、俺らの小さな職場にもこの大恐慌の波は押し寄せて来ました。

時代は「生きさせろゼネスト」の真っ直中です。俺と亮ちゃんは大変悩みました。2人で職場から「生きさせろゼネスト」に決起するのか？　それとも6年間作りあげてきた仲間作り、組合作りに徹するのか？　2人で討論し続けました。しかし俺は半ば強引に亮

青年集会で発言する鈴木コンクリート工業分会（7月25日）

ちゃんに決心させました。東京西部ユニオンには俺が全ての責任を取るから、全神経を集中して職場から全ての労働者、仲間の決起を作り出そう、労働組合を職場に作ろう。これが俺らの「生きさせろゼネスト」だと。

3月イラク反戦・春闘集会には職場から4人結集しました。この頃には職場にも仕事が薄くなり、会社都合で仕事が無いから休んでくれと言うことが始まっていました。もちろん休業補償なんてありません。3月も終わりの花見の時期に入り、花見の席も仕事の話、会社の景気の話、世の中の大恐慌話と、こういう事で大討論になっていました。いつもの花見の席とは変わっていました。やはり大不況のせいです。

そこで俺がいつものように切り出しました。これをぶち抜くには職場に労働組合を作るしかないのだと。この時です、10人いた職場の仲間から、こう言う話は酒を飲まないで話をすべきだと言う意見が出ました。

そして4月から7月までの3カ月間、2週間に1回の酒を一滴も飲まないで行う会議、会議は1回に3時間ぐらい徹底して会社に対しての不満を出し合い、会社に対する闘い方を討議しました。俺らはこれを秘密の作戦会議と呼んでいました。

作戦会議が進んでいく中で、10人の職場の仲間が自然に給与明細書を見せ合う信頼感が出来ていきました。仲間の団結を壊さないようにするにはどうするか、絆を守るにはどうするか、実際血判状を10人で取り交わそうなどと真剣に討議しました。

一番俺らが引っかかっていた事が俺らアルバイトは全員3カ月雇用契約です。もし組合を結成して経営者からお前達はクビだと言われたらどうすると言うことが一番の問題でした。

団結の力は必ず労働組合を結成する！

会社と徹底的に非和解で闘おう、みんなが一致するまで何度も何度も会議を行いました。この作戦会議を続けて行く中で10人の腹が完全に一致しました。俺は仲間にはっきり言いました。俺の命をやるからお前達の命を俺にくれ、俺と一緒に組合で闘ってくれと。10人全員がクビを覚悟、家族をかけると意志一致し、組合結成で団結した瞬間です。

俺はこの時、この瞬間に全人生をかけ6年間ただ一つの目的、職場に労働組合を作ることに勝負をかけて来ました。職場の仲間、労働者は必ず立ち上がり決起すること、これは間違いではなかったことがはっきりしました。団結の力は必ず労働組合を結成する。

２００９年7月5日、10人の仲間が東京西部ユニオン組合事務所で鈴木コンクリート工業分会を結成するに至りました。

俺と仲間と分会結成、このすばらしくとんでもないやつらと団結し、組合結成を出来たことをうれしく、誇りに思う。会社との闘いは今本当に真剣勝負が始まったばかりです。

われわれ分会は会社がある限り未来永劫に徹底的に非和解で闘い抜きます。そして、必ず職場支配権をわれら労働者の手に取り戻します。

現在分会員15名。7月24日、第1回団交に勝利。8月28日、第2回団交決定。

さあ職場で闘う労働者同志の皆さん、俺たち分会に続け！ 職場に労働組合を作って闘おう！ いざ11月労動者総決起集会1万人結集へ！

ひめじょおん
―女性部から

「道州制攻撃」で、敵味方の構図がハッキリした！

自治労東京・北区職員労働組合
大谷　京子

今年4月から、区役所税務課・納税の係に異動しました。

異動するとまず、担当する仕事について研修を受けます。福祉事務所のときは、根拠法規として「憲法25条」から入りました。「健康で文化的な最低限度の生活をする権利」。つまり生存権が、「生活保護法」等の「福祉六法」（当時）の根拠であるというところから研修が始まったのです。

税務課では、「納税は国民の三大義務のひとつである」というところから始まります。税を納めなくても良いということになれば、国の成り立ちそのものが否定されてしまうというわけです。そのため、担当職員である徴税吏員にはものすごい権限があるということを教わります。

警察手帳よりもコワい徴税吏員証

なにしろ、裁判所の令状なしには家宅捜索ができない警察と違って、徴税吏員証さえ見せれば、職員個人の判断で滞納者の家を捜索することができるというのですからビックリです。もちろん実際はそんな事例はないのですが、そういう意識で仕事をしろということでしょう。税金を「とる」ということに、抵抗を感じる必要はないのだと、むしろ「使命感を持て」という意図で、はじめにこういう研修がなされるわけです。

「税金が上がったのは小泉内閣のせいだ！」

さて、次にビックリしたのは、住民税の高いことです。

２００７年から、いわゆる「三位一体」の改革で、所得税と住民税の比率が逆になりました。住民税は、所得額に関係なく一律10％。それまでは一応累進課税で、大半の人が5％でしたから、倍になったわけです。一般的に所得税は給料や報酬からあらかじめ引かれているので、確定申告で戻ってきたりすると得をした気分になりますが、住民税は翌年に課税され、しかも給与天引きでなく普通徴収の場合は大変な重税感があります。当初は怒りの電話が鳴り止まなかったそうですが、3年目の今年も「4回で納めるのは無理なので分割してほしい」という電話はかなりあります。

また今年から、これも国が決めたことですが、年金受給者は年金から天引きすることになったため、問合せや苦情に追われる日々です。職員はそのたびに「小泉内閣のときに三位一体の改革ということで……」と説明するので、「今度の選挙は自民党に入れない」と言う人もけっこういるようです。

道州制＝増税だ！

道州制は地方分権といえば聞こえはいいですが、結局国から補助金や交付金が来なくなるということですから、自治体はそれぞれ税金を独自に徴収することになります。「収納率が悪ければ福祉はカットだ」と、今以上に納税担当職員は尻を叩かれ、いきおい住民との軋轢も増すことが予想されます。だから「道州制反対」は、自治体労働者と住民が結びつく共通のスローガンなのです。

自治体労働者をどちらが獲得するのか

自治体で戸籍、外国人登録、税務などの業務に10年以上就いていると、国から表彰されることがあります。表彰式には皇族も臨席するとか。戦後、自治体労働者が組合に組織されたこと、天皇の官吏ではなく「労働者」として存在していることが許せない自民党の連中が自治労を目の敵にするのも、統治機構の末端としての存在ゆえに当然でしょう。

道州制攻撃は、私たちが「獅子身中の虫」として現在の統治機構を食い破った時、革命に転化するはずです。ちっぽけな「点」から偉大な「点」になるべく、自らを奮い立たせて、仲間を獲得していきたいと思います。

動労千葉労働学校で学ぼう！

8月16日に行われた第9期労働学校基礎講座（テーマ「資本主義とはどういう社会か」前半　講師鎌倉孝夫）の受講生の感想文を紹介します。

●合同労組組合員

資本主義は人間社会の中で特殊な歴史的形態であって、人間が社会を運営していく上で、資本も貨幣も必要ないんだということがわかった。資本家は利潤をあげることだけを目的としていて、そのためには人間にとって害でしかないもの、武器や原発などもどんどん造って売る、資本主義は人間にとって良くないと思った。

オバマ大統領の政権基盤が金融大資本と軍需産業であり、そもそも帝国主義政権なんだということがはっきりした。

貨幣の使い方のところで、労働者の貨幣の使い方は「支出」で、資本家は「投資」だということがわかった。

イギリスのエンクロージャーとイラク戦争が本質的に同じだということが、「目からウロコ」だった。本当に資本というのはえげつないし、労働者をとことん搾取して痛めつけて殺してきたんだということがよく分かった。しかもその目的が利潤をあげるためだけだなんて、許せない。

●医療労働者

本日の鎌倉孝夫先生の講義は、資本主義社会の中での資本と貨幣、資本家と労働者の関係がわかり、あらためて資本主義社会というのはデタラメな社会だと思いました。なぜ、私たちが汗水流して作った商品を、賃金（貨幣）でまた買うのか……。しかも法外な値段で。それで、資本家が生きられなくなったら、私たちの労働の現場を奪い、平気な顔をして首切りを行うというこの資本主義社会という本質に、ほとほと嫌気がさす思いとなりました。鎌倉先生の講義の中で、「私たちの生活には、本当は貨幣なんかなくてもつくられていく人間関係があればいい」というような内容がありましたが、本当にそのような社会が今一番望まれているのではないかと思います。

人間の、人間にしかない創造性→目的意識性を持って今後も職場で、労働組合で頑張っていこうと思います。

●福祉労働者

資本主義がどういうものなのかが良くわかりました。その中で、ポイントは敵が見えない、見させないということなんだなあという事をあらためてわかりました。資本と労働者の立っている位置が明確に違うにもかかわらず、一方的に搾取される労働者が資本の思想になっているということがミソだなと思いました。総資本対総労働というふうに、明確に階級対階級なんだと思えたなら、労働者の勝利は間違いない。しかし、ここで問題になるのが労働者の側にいる裏切り者、今日的に、日本では4・4派や体制内、そして日共です。彼らが職場でやっていることは何なのか。議会の中でやっていることもそうですが、職場での徹底した労働者への裏切りを絶対に許せないし、これをぶっ飛ばし、本当に労働者の利益のみを追求する。職場でそういう存在になりたい。そして、資本主義の崩壊という中で、本当に革命情勢になっているので、資本主義というこの体制を変革し、労働者だけでなく全ての人が生きていける社会を作るんだということが、今求められていることだと思います。

第９期労働学校日程

■基礎講座
9月19日（土）13：00～
◆資本主義とはどういう社会か（後半）
◆講師　鎌倉孝夫（埼玉大学名誉教授）
世界金融大恐慌とは、資本主義の根本矛盾の爆発である。資本主義の根本矛盾とは何かについて学習する。

■実践講座
10月24日（土）13：00～
◆韓国労働運動の歴史とたたかい
◆講師　金元重（千葉商科大学教授）
世界の中でもっとも戦闘的に闘いぬいている韓国労働運動の歴史とたたかい。

■場所
DC会館（JR総武本線「東千葉」駅前）

「過剰雇用」最多の６０７万人

林経済財政相は24日の閣議に、09年度の経済財政白書を提出した。日本経済は「歴史的な速さ」で悪化し、企業が国内に抱える余剰人員は過去最大の６０７万人となった可能性があるとした。

「バイアメリカン」条項に懸念

米下院が先に可決したエネルギー関連の公共事業に関する歳出法案にバイアメリカン（自国製品優先購入）条項が盛り込まれ、日本政府が米政府に対し懸念を示す書簡を送ったことが23日、明らかになった。同法案は自動車の調達先をビッグスリーに限定し、保護主義的な色彩が強い。

政権公約に注文

日本経団連の御手洗会長は21日、衆院選における各党の政権公約に関して「国民に安心感を与える社会保障、税財政、道州制導入による地方活性化という３つの改革を議論してほしい」と要望した。

道州制推進で一致

日本経団連の御手洗会長と大阪府の橋下知事が25日、長野県軽井沢町で会談し、道州制について議論し、「究極の構造改革になる」と道州制推進で一致した。

自民が道州制工程

次期衆院選で自民党が掲げる、地方分権に関する政権公約が28日、明らかになった。道州制について、内閣に検討機関を設置して基本法を制定した後、６～８年をめどに移行する方針を打ち出した。

集団的自衛権、見直し要請

政府の「安全保障と防衛力に関する懇談会」は４日、年末に予定されている防衛計画大綱の見直しに向けた報告書を麻生首相に提出した。現在の北朝鮮情勢に対処するため、集団的自衛権の解釈見直しを求めるとともに、武器輸出３原則の緩和を提言している。

原爆症救済策に調印

原爆症認定集団訴訟の解決に向け、麻生首相と原告側は６日午前、広島市内で、原告全員の救済を盛り込んだ政府の解決策に合意する確認書を交わした。

首長連合、民主を支持

大阪府の橋下知事と横浜市の中田市長は11日、大阪府庁で記者会見し、「首長連合」として総選挙で民主党の地方分権政策を支持すると表明した。

労働トラブル続発

16日の報道によると、昨秋以降の景気後退で全国の労基署に持ち込まれる労働相談件数は08年度、約１０８万件で前年度と比べ約８％増えた。「雇い止め」などで、昨年10月から今年９月までに失職したり失職する予定の非正規社員は約22万人に上る。

「イライラする」若者60％超

仕事や生活が原因でイライラを感じている20歳代、30歳代の人が増加し、60％を超えたことが16日、大学共同利用機関「統計数理研究所」の全国調査「日本人の国民性」でわかった。

派遣社員加入容認労組は３・１％

労働組合のうち、同じ職場で働く派遣社員の加入を認めているのは全体の３・１％にとどまることが16日、厚生労働省の労働組合実態調査でわかった。

派遣社員を直接雇用

トヨタ自動車九州は22日、工場で働く派遣社員約７００人の大半を９月末までに直接雇用の期間従業員に雇い直す方針を固めた。

タスポ履歴検察に提供

たばこ自動販売機の成人識別カード「タスポ」を発行する日本たばこ協会（東京）が、特定の個人が自販機を利用した日時や場所などの履歴情報を検察当局に任意で提出していたことが25日、関係者の話や内部資料で分かった。

失業率最悪迫る５・４％

総務省が31日発表した６月の完全失業率は、前月より０・２ポイント悪化の５・４％となり、03年４月などに記録した過去最悪の５・５％に迫った。６月の有効求人倍率は、前月より０・01ポイント低下の０・43倍で、２カ月連続で過去最低を更新した。

失業率実質９％超？

総務省によると６月の完全失業率は５・４％。過去最悪の５・５％に迫っている。ところが「既に過去最悪になっている」との見方がある。からくりは政府の雇用調整助成金にある。経営の苦しい企業が、従業員を解雇しなかった場合、休業手当などの一部を助成する制度だ。世界不況を受けて適用要件を緩和した結果、申し込みが殺到。今年６月は２３８万人となった。昨年同月比の約１３４０倍だ。仮

にこれを失業者として計算すれば、完全失業率は７割近く増え、完全失業率は９・１％にはね上がる。

自殺者、半年で１万７０００人

今年１～６月に全国で自殺したのは１万７０７６人で、前年同期より７６８人増え、過去最悪ペースになっていることが27日、警察庁のまとめでわかった。

最低賃金上げ、35県見送り

中央最低賃金審議会の小委員会は28日、09年度の最低賃金の改定額の目安を決めた。35県を現状維持とし引き上げを見送り、最低賃金額が生活保護支給額を下回る12都道府県に限って引き上げを打ち出した。

非正規失職22万９１７０人

派遣切りなどで昨年10月以降に職を失ったか、または今年９月までに失う見通しの非正規労働者は合計22万９１７０人で、前回の６月調査より２・７％増えたことが31日、厚生労働省の調査でわかった。

ボーナス17％減

日本経団連が31日発表した今夏のボーナス妥結状況の最終集計によると、大手企業１６７社の平均妥結額は前年同期比17・２％減の75万３５００円で、下落率は調査を始めた１９５９年以来、過去最大の落ち込みとなった。

私鉄総連も民主支援

私鉄総連（組合員数11万５０００人）は16日、鹿児島県霧島市で開かれた定期大会で、２０１０年の参院比例選で組織内候補を初めて民主党から擁立することを決めた。

横浜地裁「起立・斉唱は義務」

卒・入学式で、日の丸・君が代を強制する通知を神奈川県教育委員会が出したのは、思想・良心の自由を保障した憲法19条に違反するなどとして、県立学校の教職員１３５人が、県を相手に、起立や斉唱義務がないことの確認を求めた訴訟の判決が16日、横浜地裁であった。判決は「義務を負う」として訴えを棄却した。

大阪市２０１５年度にも「破産」

大阪市は16日、今後10年間の市の収支見通しを発表し、新たな収支改善を行わなければ、２０１５年度にも自治体の破産にあたる「財界再生団体」に転落する、との試算を明らかにした。

ヤミ専従関連１２３７人処分

全農林労働組合幹部によるヤミ専従や兼業を調査してきた農林水産省は17日、一連の問題で懲戒処分３４５人を含む１２３７人の処分を発表した。ヤミ専従期間中の給与の返還請求額は25億円に上ると見られている。

高知の病院、ＰＦＩ契約終了へ

23日の報道によると、全国の自治体病院で初めてＰＦＩ方式を導入した「高知医療センター」がＰＦＩ契約を終了する見通しとなった。運営コストが当初予想を上回り、スタートからわずか５年で行き詰まった。

６年ぶり月給・賞与下げ

人事院は11日、09年度の国家公務員一般職の月給とボーナス（期末・勤勉手当）を、ともに引き下げるよう内閣と国会に勧告した。勧告通りに実施されれば、平均年間給与は勧告前に比べて15万４千円（２・４％）減で、03年勧告の16万５千円（２・６％）減に次ぐ過去２番目の大幅減額となる。月給とボーナスの同時引き下げは６年ぶり３回目。

日教組集会拒否３億賠償

プリンスホテルが会場の使用を拒否し、日教組の教育研究全国集会の全体集会が中止になった問題で、日教組などがプリンスホテルと渡辺社長ら取締役12人に損害賠償などを求めた訴訟の判決が28日、東京地裁であった。契約違反を認め、請求通り２億９３００万円の賠償と全国紙５紙への謝罪広告の掲載を命じた。

国家公務員、残業代引き上げ

人事院は30日、常態化している国家公務員の長時間労働を減らすため、残業代の割増賃金率を引き上げる方針を固めた。月に60時間を超える分の残業代について２０１０年４月から割増率を現状の25％から50％に拡大する。

国民年金納付率最低62％

社会保険庁は31日、08年度の国民年金保険料の納付率が、前年度（63・９％）を１・８ポイント下回り、過去最低の62・１％だったと正式に発表した。

杉並区、「つくる会」教科書採択

東京都杉並区教育委員会は12日、10年度から同区で使う中学の歴史教科書について、「新しい歴史教科書をつくる会」主導で編集した扶桑社版を４対１の賛成多数で採択した。

双龍自動車工場占拠ストが終結
11月1万人結集で闘いを引き継ごう

動労千葉を支援する会　広沢こう志

双龍支部長と抱擁する組合員（８月６日）

８月６日、金属労組双龍（サンヨン）自動車支部の平沢（ピョンテク）工場占拠ストライキ闘争が、労使合意により終結した。

塗装第２工場内で開かれた合意内容報告大会の場でハンサンギュン支部長は「構造調整を全面的に阻むことができなかったのは私の限界」と組合員に謝った。最後まで残っていた労組員４５７名の大部分が合意内容に同意し、77日目に及んだ闘いは一旦幕を閉じた。工場をあとにする組合員は、達成感に満ちた表情で、一人ひとり支部長とがっしり抱き合った。

５００人余が整理解雇

労使合意の内容は以下の通り。

・６月８日付整理解雇通告者９７６名のうち、「無給休職と営業への転職」が48％（約４６８名）、「分社と希望退職」すなわち整理解雇が52％（約５０８名）。ストライキを行った組合員６４０人余は自発的にこのうちから選択する。

・１年間の無給休職の後、生産量に基づきローテーション勤務実施。

・営業への転職希望者には、転職支援金55万ウォンを１年間支給。

・無給休職・営業転職・希望退職者については、経営が好転し、人材が必要になった場合、公平に復職・採用する。

・無給休職・希望退職者については中央・地方政府、協力会社などが就職斡旋などを支援する。

・希望退職者には現支給基準で２ヶ月分を追加支給

・上海自動車保有株を減資するなどして大幅に縮小し、大株主の地位を変更する。

・会社側は再建に向けて賃金・福祉を縮小する一方、教育費・運営資金を投入するよう積極的に努力。

・刑事責任は善処を要請。民事責任は再建計画認可後に決定。

当初４月８日に発表された整理解雇対象者が２６４６名で、その後希望退職に追い込まれるなどして６月８日に最終的に整理解雇通告を受けたのが９７６名。このうちの約５００名が整理解雇となったので、最終的に２１００名以上が職場を追われることになったのだ。

一方、警察は８月11日現在、支部長はじめ組合員41と支援の計64人を拘束した。97年の韓国大学総学生会連合（韓総連）結成式の際に１９５人が拘束起訴されて以来の大量拘束だ。

ストをやりきった組合員の声

では、ストをやりきった組合員の思いはいかなるものか。韓国のインターネットメディア「民衆の声」より紹介する。６日午後４時、荷作りを終え、最後まで死守した塗装第２工場を離れる直前の声だ。

●車体チーム・キム組合員

本当に大変な思いをしたのに、苦労した甲斐がなく残念だという電話をたくさんもらった。でも、この闘いでは敗者かもしれないが、自分との闘いでは勝者だと思う。今の自分ならどんなこともやり遂げられると思う。

●組立チーム・パク組合員

マスコミでは、塗装第１工場が５分で鎮圧されたと言っていたが、午前５時から午後５時まで闘った。報道は誤りだ。家族がとめず、外の事情さえなければ、本当に最後まで闘いたい心情だ。

●半組立製品チーム・キム組合員

正直言って、交渉の時は最初とても期待した。最善を尽くしたので悔いはないが悲しい。家族や両

親がいなければ支部長に最後までついていっただろう。

●車体・パク組合員

本当に皆がんばった。闘いきったので悔いは残らない。結果は別として後悔はしていない。でもくやしい。

●組立・カン組合員

こういう経験は二度とできないだろう。

●支援チーム・チョ組合員

勝者も敗者もない闘いだった。職員の間でこれほど激しく対立したことはなかった。労労間の対立を誘発させたことが本当に残念だ。警察が盾とこん棒を振り回すのはある意味理解できるが、職員が撃つパチンコには本当に怒りが込み上げた。ガードマンも同じだ。われわれは生きるために闘っているのに、額に汗して金を稼ぐでもなく、人の人生を踏みにじるガードマンを見て、本当に恐ろしい社会だ、資本主義という世の中はこういうものなんだと思った。

●組立・チョ組合員

支部長をはじめ、労組の幹部は本当に頑張った。幹部はここで冬を送り、夏を迎えた。家庭が破綻した幹部も多かった。離婚した家庭、夫人が子供を連れて逃げた家庭……幹部なので、そんな素振りも見せずに苦労していた。

●車体・チョ組合員

娘が3人おり、父が病気だ。何日か前に娘たちに「愛してる」と遺言メールをケータイから送った。すると電話口で泣くので、受信拒否にした。家長として家族を養い、生計をたてなければならなかったのに家族に申し訳ない。それでも命をかけなければならないことが、恐ろしくもあり、意義もあって誇らしい。

正規・非正規の共同闘争

一方、ストに先行して双龍自動車支部の指導部とともに工場内の煙突にのぼり86日間の高所ろう城を闘いぬいた双龍自動車支部非正規職支会のソメンソプ副支会長は、今回の闘争の第1の成果として、元請けと下請けの労働者が共同で闘いぬいた、ということを挙げる。ソ副支会長を含めて19名の非正規職労働者がストをともに闘い抜く中で、これまで不動のものに見えた正規職と非正規職との間の厚い壁が完全に崩れたという。おにぎりが2つずつ配給されれば、正規職の同志たちが自分のひとつを差し出し、「頑張ろう」「必ず勝利しよう」と励ます――そういうエピソードがたくさんあったという。ソ副支会長は、「私は、合意書がどうのという以前に、これだけで勝利だと思う」と語っている。

本当の闘いはこれからだ

会社側は8月8日、整理解雇の対象から外れていながら工場占拠ストに参加した「非解雇労組員」など94人に対して「休業」を発令した。また警察はすでに労組執行部に5千万円もの損賠請求訴訟を起こした。会社側はさらに、民事・刑事責任の範囲を拡大したり、組合活動を妨害するなど、早くも合意を踏みにじる姿勢を見せている。労働組合の団結した力が問われるのはこれからだ。

今年、東京・中野で行われた「8・15労働者・市民のつどい」で発言した民主労総ソウル本部のチョヒョノ副本部長は、日本の青年労働者が双龍車の闘いに圧倒的に高揚し、「双龍の闘いに続く！」と口々に決意する姿に触れ、「8・15集会の発言では民主労総と金属労組がゼネストの約束を履行しなかったという否定的な面を強調したが、韓国に戻って、現場の闘いの観点から双龍車闘争の総括論議をしっかりやりたい」と語った。動労千葉の闘いもそうだが、ストを貫徹したあと、解雇者を守り抜き、労働組合の団結を固め、新たな闘いに打って出ることができたときに初めて、真の意味で「勝利した」と総括できるのだ。

「双龍同志たちの闘いに続こう！」――このわれわれの決意を、職場闘争の実践で、11月1万人結集で本物にしよう。双龍闘争の勝利をともにつくりあげよう。

警察特攻隊、双龍工場突入失敗（8月4日）

10・11三里塚全国集会へ！　空前の大結集めざして総決起しよう

市東さんの農地強奪を許すな
9・26千葉県三里塚集会への賛同と参加のお願い

呼びかけ　国鉄千葉動力車労働組合
主　催　9・26集会実行委員会

世界大恐慌がますます深まっています。そして大失業と戦争の攻撃が激化しています。資本主義が、音を立てて崩壊を開始しました。今、全世界で新たな労働者の闘いが始まっています。

この大恐慌が日本資本主義に最も大きな、かつ深い打撃を与え、新自由主義の破綻の中で階級的矛盾を噴出させています。この中で戦争・改憲と民営化・労組破壊攻撃が激化しています。7月都議選における自民党の惨敗とその後の解党的状況は、労働者階級人民の積年の怒りが爆発したことを示しています。

階級支配の全面的崩壊におびえる日本帝国主義は、たたかう労働運動の砦である国鉄1047名解雇撤回闘争と全人民の反戦・反権力の砦である三里塚闘争の解体に打って出ています。

日帝は、三里塚闘争の43年に及ぶ「空港絶対反対、農地死守・実力闘争、一切の話し合い拒否」の原則と労農連帯の地平を破壊しようとしています。市東孝雄さんの農地（耕作地）を農地法で奪おうとする攻撃です。農地法は「耕作者に権利あり」が鉄則です。土地収用法が失効したから今度は農地法で土地を奪うなどということが許されるはずがありません。祖父・父と三代にわたり90年間耕作してきた農地を農地法で奪おうとする空港会社を絶対許すわけにはいきません。日帝・空港会社は、農地取り上げ・用地買収が絶望的となり空港完成のメドがまったくたっていません。この農地法による農地（耕作権）の強奪攻撃は、追いつめられた敵の最後のあがきです。

市東さんの農地を守るたたかいは、反戦・反権力の砦を守りぬく闘いであり、改憲・戦争と民営化・労組破壊攻撃との闘いそのものです。いま、道州制・民営化攻撃として公務員労働者360万人の首切りと農業・農民つぶし攻撃が一体で襲いかかっています。労働者も農民も、いまや生きるためには、ともに資本主義を打ち倒す闘いにたちあがることが求められています。23年前、当時の中曽根首相が「国鉄労働運動をつぶして総評を解体し、日本の労働運動を一掃し改憲・戦争へ突き進む」と公言して、1987年に国鉄分割・民営化を強行しましたが、国鉄労働運動を根絶できませんでした。いまも動労千葉は団結をかためて闘いつづけています。また国鉄104名解雇撤回闘争が不屈に闘いつづけています。そして三里塚闘争も農地死守の原則を貫き闘いつづけています。この力が改憲攻撃を打ち破ってきたのです。

労農連帯の闘いと国際連帯の闘いの発展がまったなしで求められています。この力で市東孝雄さんの農地強奪を粉砕しよう。10・11三里塚全国集会に総決起しよう。そして11・1全国労働者総決起集会（東京・日比谷野音）に結集しよう。

以上の趣旨で「市東さんの農地強奪を許すな！　9・26千葉県三里塚集会」を開催します。たたかう仲間の皆さんの賛同・参加を心より訴えます。

2009年8月

■市東さんの農地強奪を許すな―9・26千葉県三里塚集会
日時　9月26日（土）13：00～
場所　DC会館2階（JR東千葉駅下車2分）
千葉市中央区要町2―8　TEL043―222―7207

■10・11三里塚全国総決起集会
日時　10月11日（日）12：00～
場所　反対同盟所有地

●8・15集会に参加して

元民間労働者　堀川広己

8月15日、「改憲は阻止できるぞ！　2009―国益と排外に憲法は屈するのか」（主催・戦後50年を問う8・15労働者・市民のつどい全国統一実行委員会）に参加しました。会場を満杯にする710人が集まりました。

今年の8・15は、ソマリアやオバマや田母神、そして北朝鮮問題など改憲に関わるいろいろなことが起きているなかで持たれています。その中で私がこの集会について興味を持ったのは、ひとつは改憲阻止の集会なのにビラや集会案内を見る限りでは憲法9条のことが書かれていないことです。それはどういうことなのか。もうひとつは「改憲は阻止できるぞ！」という集会タイトルにあります。なぜ「阻止しよう」とか「考えよう」ではなく「阻止できるぞ」なのか。

この2つの疑問に対して、鈴木達夫弁護士の基調が明快に答えを与えてくれました。

まず「憲法9条というのは大きな争点です、しかし戦争ができる国内体制、統治形態（国家と人民の関係）の原理的転換―つまり構造改革、司法改革、そして究極の構造改革と言われる道州制、これも改憲攻撃の大きな実体です」「その意味で改憲阻止決戦は始まっている。このことをがっちりと共有したい」と訴えました。

そして「同時にその（改憲阻止闘争の）ど真ん中にいる国鉄１０４７名闘争の富田さん、法大闘争の坂野さん、裁判員制度に反対する闘い……ここに改憲阻止闘争の具体的展望を見たい」「改憲阻止闘争が始まっていると同時に勝てる展望を日々切り開いている」と提起されました。

私は「改憲は阻止できる！」ということの核心点はこれなんだ、今の闘いを全力で勝ちにいくことなんだと強く思いました。

「改憲は阻止できるぞ！」のもうひとつの核心は、労働者階級の国際連帯です。特別報告に立った民主労総ソウル地域本部のチョ・ヒョノ副本部長、チョ・ジョンミ組織部長による双龍自動車闘争の報告は、その前段のビデオ上映と合わせて非常に感動的なものでした。続く動労千葉田中康宏委員長の発言は、われわれ交流センターの課題が「労働組合が資本の手先になっている現状を見すえること、戦争と改憲を止めるには労働者が自分たちの力を取り戻すこと以外にない」「国鉄分割・民営化反対闘争の原点に立ち、決着をつけよう。11月集会に1万人を集めよう」と訴えました。サンフランシスコ国際労働者会議の報告も、全世界で労働者は共通の課題に立ち向かっていることを実感させました。

●山田区長―杉並区教委の「つくる会」教科書採択弾劾！

東京西部労組交流センター　伊藤登美子

杉並の採択阻止闘争は、道州制・民営化をおしすすめる山田区長―右翼ファシストとの闘いであった。

4月、山田区長は拉致被害者家族支援運動を区の政策に据え、6月支援集会を開き、区民を動員した。そして、職員にブルーリボン・ブルーシールを強制した。7月13日には田母神講演会とついに、ファシスト勢力を前面に押し出して、「つくる会」歴史教科書採択体制を敷いたのである。

6月、私たち交流センターと西部ユニオンそしてこの4年間採択阻止闘争を続けてきた杉並・親の会など闘う労働者・市民が結集し、実行委員会を結成した。月・水・木・金また土・日と連日駅頭・区役所前で街頭宣伝をした。マイクを持ち、署名を取り、ビラまきをした。大恐慌で資本主義が崩れ去る中、戦争と改憲が叫ばれる状況、教科書を採択する運動が山田・中田（横浜）・橋下（大阪）首長連合として道州制国民運動（大量解雇と戦争国家作り）の最先兵になっていることなど訴えた。だからこそ改憲・核武装、北朝鮮をわめく田母神前航空幕僚長を杉並に持ってきたのだ。都議選の中でも、「北朝鮮に制裁を」と叫ぶ右翼ファシストが登場。7・12集会・デモ街頭宣伝、13日阻止大街宣、私たちの街宣が圧倒した。そして、再び直前に8・10田母神講演会（「つくる会」派チャンネル桜主催）が計画されるも、8・10阻止区役所行動で、「道州制絶対反対！　採択阻止」を鮮明に山田の道州制国民運動を暴露し、粉砕した。

12日採択当日、大音響の右翼街宣車と「日の丸」を掲げ徘徊する

「つくる会」派、集会を妨害するためにマイクで絶叫する右翼に対し、私たちは一歩も引かずに採択終了まで、署名提出（２２８４筆）、座り込み、集会を続けた。区教委は「つくる会」派２名、同調派１名、石原―山田の忠実な下僕・井出教育長、そして反対派１名。「継続」で穏便に採択する方針をとった山田体制は完全にその正体を明らかにした。右翼ファシスト・公安警察に守られた採択であった。弾劾のビラを区の労働者にまく。初めて参加した青年労働者たちは次々に右翼に怒りをぶつけ、誇らしげに発言！　敗北感は全くない！

４年前の組合は組合員総決起、採択後も全国に撤回を訴えた。今回、組合指導部は「子ども救援カンパ」方針を前面に資本主義の救済者の道に踏み込んだ。日共とともに「つくる会」や「田母神」ひとつないチラシの「平和と人権」集会に逃げ込んだ。日教組解体攻撃・戦争教育と青年労働者への様々な攻撃に対し、闘う職場の労働者の団結を作ることこそ最大の労働者の武器であり、勝利への道だ。全世界の教育労働者とともには、教育の民営化、軍事化とたたかっている。11月教育労働者の総決起へ、ともにたたかおう。

●これが国労大会か！　緊張感なし！　迫力なし！　怒りなし！　何もやらないのが方針！

国労郡山工場支部　橋本光一

国労第77回定期全国大会が８月21、22日、伊東市で開催された。

大会は一言で、何の方針もない大会であった。完全に破綻している４者４団体路線にしがみつき、これまでの取組みを継続する、つまり、何もやらないことを決めただけだ。総選挙後の民主党政権に幻想を持つ共産党・革同と「自民党との窓口」が無くなりはしないかとオロオロする社民党党員協の「対立」はあったが、土下座路線は両者とも同じだ。50年以上続いた自民党政治が崩壊しようという革命的情勢のこのときに、こともあろうにその自民党との「窓口」の維持が唯一の方針とは！　こんな本部に組合員の命運は絶対にあずけられない。

実際、今大会では、闘争団生活援助金の引き下げが決定された。また「大衆行動が多く組まれ赤字財政である。今年度は黒字へ」という財政小委員会報告をみれば、本部が闘いの旗をたたもうとしていることは明らかだ。

代議員の発言からは、厳しい職場実態の中であえぐ組合員の姿が垣間見えた。ところが、この実態を強制している分割民営化体制・ＪＲ資本と、職場反合闘争で断固闘うという発言はひとつもなく、言われていたのは「仕事・安全総点検運動」と称する提案運動であり、「和解したのにヒドイ」という会社への泣き言だ。まともに職場で闘おうとしたら、会社とぶつかる前に、本部や大会代議員のような闘わない役員とまずぶつからねばならないということだ。

この大会において、国労共闘のビラのみが、勝利の展望を唯一指し示した。「１０４７闘争が自民党を崩壊に叩き込んだ。道州制３６０万人首切りと闘う公務員労働者、格差貧困と闘う６０００万人労働者の怒りに依拠し、ＪＲ体制打倒！　１０４７名解雇撤回を勝ち取ろう！」という路線の鮮やかさが際立っていた。

これからのすさまじい情勢の進展の中で、４者４団体など吹っ飛んでしまうだろう。今回の大会はその序章だ。５・27臨大弾圧被告団を先頭に、腐りきった国労本部を打倒し、ＪＲ資本との闘いで労働組合を甦らせよう！　11・１集会に１万人を集めよう！　われわれこそが１０４７闘争の責任勢力となろう！　共に奮闘しよう！

●ここに展望がある！

千葉労組交流センター　綿貫　透

自治労熊本大会へのりこんで、私自身の処分撤回を訴え、闘う自治労を作ろうと訴え、全国の組合員と大合流しました。

道州制を認め、資本主義を救済するのか打倒するのか。鋭い分岐をうみだしました。２日めの昼情宣のときに、「ここに勝利の展望がある。交流センターに結集して闘おう」と訴えました。多くの仲間が耳を傾けて、真剣に討論に応じてくれた。

職場や単組で団結をつくり、体制内派と闘っていることと、大会への闘いが今回ほど一つにつながったことはないと思います。職場でも当局と非和解的に闘い、熊

本へ行ってくる旨、仲間に話してきました。同時に今ほど交流センター自治体労働者部会の圧倒的な建設が求められています。

阿蘇山麓に怒りは轟きました。11月は東京で乱を起こそう！

●自分の組合を作り変えるぞ

埼玉労組交流センター　齋藤知春

8月23～25日、熊本で開催された自治労大会にビラ撒きと傍聴で参加してきた。

青年部総会の冒頭では江崎と相原久美子が挨拶に立ち、「政権交代で自治労の政策を実現しよう」という訴え。現場の怒りや闘いを全部選挙の一票にすることが未来の展望であるかのように語る様子にまずイライラ…。会場のあちこちから「学習と交流、労働者の理論を学ぶ、職場実態の点検、職場からつくる青年部運動」という発言。確かにそれは重要だと思うのだが、いまいち現場の様子が見えず、面白くない。「労働者の理論」ってマルクス主義じゃないかと思うがその単語は一切出ない。

印象に残っているのは、社保労組からの「年金機構になるが、行き先がはっきりしていない状態。懲戒処分者は排除されている。どこの公共職場でもこれから起こりうる。自治労のいっそうの団結が求められる」という発言。そんな大変な状況なのに、もっと怒るべきじゃないの？　自治労はきちんと闘って自分たちの雇用を守れ！と言わせない、言えない状態ってなんなんだ？　とすごく腹が立った。社保の状態こそ道州制で起こることじゃないか。

大阪府本部からは「『公』の概念を拡大し、公共サービスを安定して提供するために、もっと住民の立場に立って、地方自治を担う意識改革と具体的な提案を」というような修正議案が出され、まるで当局提案。しかし、それに対しての本部の反論もなんだかはっきりしない。「公務員の首だけ守ればいいのかー」という野次が象徴的だ。

青年部総会中、昼休みに外に出てきた青年たちに声をかけ、11月労働者集会の話や現場の様子を聞くことができた。「民営化は困る」とか「道州制になると国保連合会がどうなるか不安」とか「賃金が低い」とかの素直な怒りや不安がある。それをそのまま引き出して闘えば、青年の力をものすごく発揮することができるはずなのに、「今はそういう時代じゃない」「住民の理解を得られない」「青年はついてこない」と言って屈服していくあり方が会場を覆っていると感じた。

25日からの本大会も、内容はもっとひどいけれど、喫煙所にいる人やアジテーションを聞いている人と話をしてみると、これじゃまずいと思っている人や、本部に対する反対意見ばかりだ。だれもこんな方針に展望は持っていないのだ。

とにかくくやしいんだけれど、私たち動労千葉派が実際に職場で闘って、それで労働者は団結できる、青年は立ち上がるということを見せないと説得力がない。こんな本部方針ではなく、現場が生き生きと闘える方針、財政難だろうが国が借金抱えようが、労働者の首切りや賃下げや不利益になることには闘うんだという労働者だけに依拠した闘いを公務員職場でやるということ。そこに展望があることを掴んだら、現場を押さえつける自治労本部なんて当然にひっくり返せると思った。

道州制絶対反対で闘うためにも自治体の青年労働者が主体的に立ち上がることを本気で追求しなくてはならない。一番現場の闘争をやる組合に、マルクス主義で闘う組合に、自分の組合を作り変えて、その力でまたこの場に登場したい。

Photo Document

2009年7月～2009年8月

裁判員制度を廃止せよ！

8・3　東京

全国初の裁判員裁判が開始された８月３日、東京地裁を怒りのデモが直撃した。「裁判員制度はいらない！大運動」が呼びかけたデモの先頭に、労組交流センターや動労千葉、スト労自主の旗が翻った。

われわれが1047名闘争の主流派だ！

8・21　静岡

８月 21、22 日に静岡県伊東市で行われた国労第 77 回定期全国大会の初日、国労共闘と静岡、神奈川の労組交流センターは、大会会場のホテル聚楽前に登場し、「1047 名解雇撤回」ののぼりを立て、大会の雰囲気を一変させた。

道州制絶対反対・本部打倒！

8・25　熊本

８月 25 ～ 28 日の４日間、自治労第 81 回定期大会がグランメッセ熊本で開かれた。大会初日、労組交流センター自治体労働者部会は早朝から 40 人を超える部隊で登場し、自治労本部打倒と 11 月労働者集会への大結集を訴えた。

月刊 交流センター　2009年９月号　No.234　定価300円（本体価格285円）

全国労働組合交流センター　東京都台東区元浅草2-4-10　五宝堂・伊藤ビル5F　URL:http://www.k-center.org
TEL 03-3845-7461　FAX 03-3845-7463　郵便振替口座／00150-9-408647　E-mail:centergo@nifty.com

発行人／中野　洋　入江　史郎　辻川　慎一　　編集人／井上　長治